

# 名古屋 文化 情報

2012

9

Sep.

No.342

NAGOYA  
Cultural  
Information



## Contents

九月のうた	2
随想 坂 治栄 舞台美術家	3
視点 名古屋の民謡界 まとめ/飯塚恵理人	4
この人と… 坂本久美子さん(上) 聞き手/倉知外子	6
ピックアップ	8
おしらせ	9



表紙

作品

## 「Metamorphose」

(2009年/113×84cm/デジタルプリント ハーネミュール)

テーブルの上で小さな庭をつくるシリーズです。

そこにあるリアルなものを表象的に変化させて作品を作っています。

## 檀田 珠実 (ひつだ たまみ)

1958年 香川県高松市生まれ

1984年 愛知県立芸術大学大学院美術研究科修了

1997年 英国王立芸術大学大学院 (RCA) 修了

1998年 エプソンカラーイメージング大賞 写真部門大賞受賞

2004-05年 「新花論」/東京都写真美術館

現在 名古屋芸術大学デザイン学部准教授

# 九月のうた

## 道で

ひはら まさむじ  
日原 正彦

ささやかな用向きを終えた身の  
疲れた影を曳いて  
静かな午後の角を曲がると

道のなかほどに  
べたりとすわりこんでいる小さな子  
まるでいまそこで  
生まれたばかりというような  
かおをして  
にっこりしている

母親があわてて抱きあげるまでのほんのわずかの間

その子  
だれのものでも  
いつのものでも  
どこのものでも  
ないものでも  
ないというかおをしていた

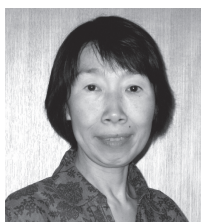
たぶん  
世界のまんなかにおかれていたのだ  
ぼんやりとかたむいた電柱の立っている  
もうひとつの角を曲がり

道だつて  
道を忘れることもあるんだ  
と思いつつながら  
なんだかすがしく

道というのは、さまざま人生が行き交う空間であり、また  
行方定めぬ旅へといざなつてくれる憧れや郷愁の象徴でもあ  
る。またこの世の根源から湧き出る大きな時空の「流れ」と位  
置づける哲学もある。ある日その道でべたりと坐りこんでいる  
一歳ぐらいの子を見た。その真水のような表情。生死を超え、  
人間を超えたようなその顔。坐らせている道が、世界がはつと  
しているように見えた。

## 随想

## 舞台美術展



ばん はる え  
坂 治栄 (舞台美術家)

今年5月、千種文化小劇場（ちくさ座）で、舞台美術展が開催されました。私の所属する日本舞台美術家協会中部支部が久々に企画・主催したものでしたが、今回の展覧会は、名古屋の舞台美術、テレビ美術の草分けともいべき 故内山千吉氏、故島崎隆氏、お二人の追悼展という特別なものでした。

テレビ放送開始の頃のセット図面や写真、設計にも携わられた「ちくさ座」をはじめとする各地での舞台のデザイン画等、テレビと舞台の両面で活躍された島崎氏らしい展示や、昭和30年代からの膨大な数と見事な筆致で圧倒される内山氏の作品群に、ご来場いただいた方々も、青春時代を懐かしんだり、知らない時代の演劇について思い巡らせたりして、とても熱心に見ていただきました。

私にとっても、恩師にあたる内山氏の作品を久しぶりに間近で見ることができ、また、自分が生まれた頃の先生の作品に初めて触れる機会を得て、改めて「もっと、絵を描かないと!」と反省させられた展覧会でした。

そもそも私が「舞台美術」に興味を持ったきっかけが、30年位前に見た舞台美術家協会（当時

は日本舞台・テレビ美術家協会）の舞台美術展でした。歌舞伎が好きで、裏方に興味はありましたが、この展覧会を見るまでは、舞台美術の仕事について何も知りませんでした。その後、幸運にも内山氏に師事することができ今に至る訳ですが、先生と、そのアトリエに週一回集まる生徒たちの作品の発表会をしたのも懐かしい思い出です。

偶然でしょうか、昨年から今年にかけて、中部の舞台美術家による個展が相次ぎ、昨秋には、浜中優氏が「市民ギャラリー矢田」で、今年2月に、武井久徳氏が「クリエート浜松」で、またこの夏には、井上知也氏が「演劇練習館（アクテノン）」で、各々今までの作品の集大成ともいえる展覧会を開催されました。

もちろん、舞台美術は本来舞台芸術の一部であって、美術や衣装を独立して見せることはありません。ただ、美術家同士の交流の場として、そしてまた、このような仕事を紹介する場として、展覧会を開くことも、一つの手段だと思っています。

かつての私のように、展覧会でこの仕事に出会い、興味を持ってくださる方が一人でも増えればと願っています。



## 名古屋の民謡界

名古屋市民芸術祭'99（平成11年度）主催公演「民謡・旅ゆけばー」や中日民謡フェスティバルの構成・演出などを手掛け、名古屋の民謡界に詳しい東彰治氏に、名古屋の民謡界と民謡の魅力について伺った。

（まとめ：飯塚恵理人）

## 中日劇場と民謡との関わり

—— 東さんが名古屋の民謡と関わるようになったきっかけを教えてください。

東 僕は東京で劇団関係の仕事をしていて、昭和35年の春に名古屋に来たんです。昭和40年に中日劇場が開館し、23年間勤めました。民謡との関わりは、初代の川崎瀧雄さんが中日劇場で発表会を企画され、NHKの岡本一彦さんと共に構成や演出をお手伝いしたのが最初でした。川崎さんは元獣医だったのですが、NHKのど自慢で名古屋甚句を唄って優勝され、民謡の塾を開かれた。今も続く「川崎会」の発祥です。川崎さんはそれ以降中日劇場で発表会をされたので、ずっと一緒にお仕事をさせていただきました。昭和50年からは中日新聞主催で「中日民謡フェスティバル」が行われるようになり、26回まで続きました。20回目からは金山の市民会館に会場を移しましたが19回までは中日劇場でしたから、ずっと構成と演出に関わりました。企画として面白く質の高いものにと、人選しました。

この「中日民謡フェスティバル」で思い出す方を挙げると、やはり初代の川崎瀧雄さんですね。川崎さんの仲間というか育てた方を三人挙げると、まずは長屋光子（甚光）さん、この人の名古屋甚句は見事でした。あと木村君さん、この人は民謡三味線の名人です。あと山崎定道さん、この人ものど自慢優勝がきっかけで川崎さんについて本格的に稽古



初代 川崎瀧雄さん

した人ですが、馬子唄の名人です。

津軽三味線系統の方も二人いらっしゃいました。中村隆志さんと伊藤清光さんのお二人ですね。中村隆志さんは津軽・北海道を巡業し、東京で唄っていました。名古屋では金山の傍の沢上にお茶の妙香園のお稽古場があって、そこで稽古されていました。伊藤清光さんは惜しくも昨年亡くなら

れました。東京の藤本秀夫さんの弟子の藤本秀内さん、この方は民謡と端唄が得意でした。押村多佳克さん、この方は派閥に属さずグループで勉強されていましたが新民謡系の唄い手です。多田夏代さんは鈴鹿馬子唄の名人でした。「中日民謡フェスティバル」は26回で終わりましたが、その最後の頃には内藤千賀弘さん、山崎定道さん、中村優利さん、伊藤清光さんの四人が「若駒」を設立して楽器の使い方など新しい民謡発表会の形を模索していました。

## 名古屋市民芸術祭'99(平成11年度)の民謡公演

—— 平成11年の名古屋市民芸術祭'99主催公演「民謡・旅ゆけばー」は、伝統芸能公演として中部地区で活躍す



中日民謡フェスティバルのパンフレット



名古屋市民芸術祭'99主催公演「民謡・旅ゆけばー」  
フィナーレの大名古屋音頭



る民謡十社中の合同出演で行われた。出演した社中は、「中日民謡フェスティバル」などで実力をつけていた団体で、木村君円と木村会、藤本秀内と藤本邦楽学園、中村優利と優利民謡会、山口寿章と民謡山口会、山崎定道と民謡山崎会、川崎瀧雄と川崎会、伊藤清光と清光民謡会、黒田和子と黒田民謡会、蟹江尾八と尾八会、内藤千賀弘と藤栄会であった。

第一部は民謡構成の「北国街道流れ旅」という形で、下に記した信濃の追分から北海道の江差までの北国街道沿いの民謡が唄われた。(以下( )内は民謡の地名)「信濃追分」(追分宿)「小諸馬子唄」(小諸)「柏原おけさ」(柏原甚句) (信濃柏原)「三人心口説」(瞽女唄・高田)「三階節」(米山甚句) (柏崎)「出雲崎おけさ」(出雲崎)「綾子舞」(女谷)「佐渡おけさ」(相川音頭) (佐渡相川)「新潟おけさ」(新潟)「越後追分」(寺泊)「三条凧囃子」(三条)「越後船方節」(新潟港町)「酒田船方節」(酒田)「久保田節」(秋田)「秋田甚句」(久保田)「能代船方節」(能代)「鱈ヶ沢甚句」(鱈ヶ沢)「十三の砂山」(十三)「江差追分」(江差)。北国街道沿いの人の交流につれて、民謡が歌詞を少しずつ変えて伝搬していく、その唄をそれぞれ取り上げて唄ったものであり、民謡の伝搬と歌詞の変化がよく分かる好企画であった。

第二部は「尾張めでたい節」という形で、意外と市民に知られていない尾張の「祝い唄」を聴いていただくものであった。唄われた尾張の祝い唄を午前の部・午後の部の順に挙げると以下ようになる。(曲名の前に「・」のあるものは午前・午後両方の部で唄われたもの、「前」は午前のみ、「後」は午後のみ)「・尾張めでたい節」「・名古屋甚句」「・熱田神戸節」「・十四山音頭」「・十四山桴場豊年音頭」「前 守山しょんがえ節」「・尾張木遣り音頭」「前 尾張太鼓」「・鯨踊り」「・鯨ばやし」「前 名古屋口説」「・平針木遣り音頭」「・豊浜の須佐踊り」「・ファイナーレ 大名古屋音頭」「後 夫婦鯨」「後 太鼓合奏 万才ばやし」「後 篠島の天津絵」「後 平島の糸繰り唄」。名古屋を中心とする尾張地域に多くの民謡が存在し、民衆に歌い継がれてきたことを広く市民に知っていただく意味でも、意義の大きな催しであった。

## 名古屋開府四百年記念事業と民謡

—— 平成21年10月17日には、名古屋市民芸術祭'09(平成21年度)主催公演として「開府四百年によせて 語り継ぐ賑わい」という催しが行われた。第一部では伝統の継承という観点から、民謡・辻講釈・箏曲組歌・狂言が取り上げられた。第二部はそれらの伝統芸能を用いた新しい演劇の創造というテーマで「新邦楽ミュージカルセッション

風が吹く一山三と阿国」(作・演出 東彰治 音楽構成 野村峰山)が上演された。第一部の中の「街道をゆく」では「東海道宮の宿から七里の渡し」までの民謡として「神戸節」「名古屋甚句」「桑名の殿様」が、「姫街道の平針」では「平針木遣り音頭・本唄桑名節」が、「東海道の脇街道は佐屋街道」では「十四山音頭」が唄われた。いずれも地元に関わった民謡である。また同じ第一部の中の「御城下では」でも、名古屋で伝統的に相撲の興行が行われたことから「相撲甚句」が唄われた。



名古屋市民芸術祭'09主催公演「開府四百年によせて 語り継ぐ賑わい」

## まとめ—名古屋の民謡の魅力—

—— 本校のまとめにあたり、東さんに「今公演を企画するなら取り上げたい出演者・内容」について伺った。

東 現在活躍している蟹江尾八さん(民謡・端唄)、斎千龍さん(民謡・端唄)、伊藤陽扇さん(民謡・豊橋在住)、川崎会では川崎千恵子さんの後見を前提として川崎由美さん、数年前活躍していた山崎会の飯田裕子さんも楽しい人材。コンクール出身の若手のほか、会から推された若手、あるいはオーディションで選ばれたメンバーで構成し、箏や尺八の助演協力を求めたいです。また、節談説教節、説教源氏節、尾張万歳、三曲万歳、伊予万歳、のぞきからくり、地芝居など保存再現していくことも必要です。

—— これはとても魅力的なプログラムである。民謡は「唄」であるが、「舞台芸能」として「日本舞踊」「芝居」「演劇」に関わったり、「囃子」「邦楽」と関わったり、あるいは「現代邦楽」の一つとして「洋楽器」とのセッションなども行いつつ、江戸時代から伝わり現代に生きる「音楽」として今も進化・発展を続けている。今後も名古屋の民謡が歌い継がれ、また民謡が市民の趣味として広く普及し、長く続くことを祈っている。

## この人と...



三代真史ジャズ舞踊団芸術監督

さか もと く み こ

## 坂本 久美子さん 上

## ジャズダンスをショーの世界から芸術の世界へ

舞踊団結成から僅か20年の快挙！2011年度名古屋市芸術奨励賞を舞踊団が受賞し、国内、海外の受賞歴と活動歴には暇がない。裏方に徹し、ジャズダンスを格式高い芸術に導いた信念。坂本久美子さんのもの静かな人柄の中には、熱い情熱が溢れていた。

アクロバットの動きを取り入れた独自の世界観は、観客を圧倒し魅了している。芸術監督、指導者として三代真史ジャズ舞踊団の大国柱である坂本久美子さんのこれまでを伺った。  
(聞き手：倉知外子)

## 三代真史さんとの出会い

坂本久美子さんは、1981年に名古屋YMCAリズムフィットネス研究所長になった。0歳から100歳までの体力に添ってリズムにあわせたダンスができるフィットネスプログラムを考案し、リーダー養成の研究と実践をすすめた。また、気軽にダンスを習うことができるプログラムも創案した。人気があがり忙しくなってアシスタントを募集。そこで大学生だった三代真史さんとの出会い、ダンサーとしての才能を感じて採用した。その当時、エアロビクスブームに三代さんの人気も相まって、講座はいつも満員だった。しかし、その様子を見ながら、三代さんにプロードウェイで本格的なジャ

ズダンスの勉強をさせたいと思い、アメリカでの教師探しが始まった。三代さんは、大学卒業後は故郷にて教員になる予定だったが、坂本さんは三代さんのご両親に「海外でも活躍できる舞踊家に育てます」と約束した。その責任を感じていたし、その才能を見抜いていたと語る。

## 共感と信頼できる人との出会い

三代さんと共に仕事をしながら、ジャズダンスを本格的にやろうと、1983年にロサンゼルスからサンフランシスコへと先生を探しまわった。ニューヨークのプロードウェイで最後



ルイジー（N.Y）のレッスンを受ける  
(1983年)

に出会ったフランク・ハチェット教師のダンスについての考え方に共感し、翌年から三代さんへの指導、ダンスチームを組んでの研修、指導講師の名古屋への派遣などをお願いした。それに平行して、プロのショービジネスとしてダンスグループ「Masashi Action Machine」を結成。この舞台を観ていた演出家（元NHKプロデューサー）伊豫田静弘氏との出会いが、舞踊団結成につながる。



舞踊団の前身「Masashi Action Machine」結成1983年



## 名古屋市市民芸術祭賞を受賞

名古屋市市民芸術祭'92（平成4年度）に参加し、「蜘蛛の糸」で大賞である芸術祭賞を受賞した。そこには、3年前に目標を示した伊豫田氏の存在があった。

舞踊団設立前のMasashi Action Machineでショー・ダンスとして活躍していたころ、その舞台を観た伊豫田氏が「芸術の世界へ行きなさい。その為には、グループでは駄目なので、舞踊団をつくって、名古屋市市民芸術祭に参加しなさい。三代さんがもったいない」と。それまでしたことのない厳しいオーディションで出演者を選出し、伊豫田氏の台本、演出で「蜘蛛の糸」の作品創りがスタート。坂本さんは「伊豫田さんは私達を触発されるが、考えることと創ることには口を出されなかった。むしろ、私達の方法に理解を示していただいたので、自分達の発想を舞台に出しやすかった」とその時を振り返る。楽しく笑顔で踊るショー・ダンスの世界から、芸術の世界に変わる大きな転機となった。1990年、三代真史ジャズ舞踊団結成となる。

## 日本舞踊を習い、俳句を詠む少女

ここで、坂本さんの生い立ちに触れてみよう。坂本さんが育った環境は終戦後の間もない時代だったが、恵まれた家庭があり、現在に繋がる源があった。三重県に生まれ、4歳頃から父親の影響で俳句を詠んでいた。初句が「大しけの竹は一番かわいそう」と。日本舞踊も4歳から母方の叔母に習い、踊りが好きだった。小学校6年生の時、学芸会の劇台本「友情の松葉つえ」でいじめをテーマにしたシナリオ第1作を書いた。中学校でダンス部に入り、一時期は町の劇団にも所属した。そして中京大学体育学部健康教育学科（初学科）に進学。その当時の中京大学の学生は、オリンピックや国体の選手を目指し、部活で実技に力を注いでいた。好きなダンス部がなくマネージャーの仕事が主だった坂本さんは、オリンピック体操金メダリストの中山彰規さんに悩みを相談した時、くじけないように励まされた。こうした経験からも、現在の舞踊団のスタイルが培われた。

## 主婦専業からのホップ・ステップ・ジャンプ！の始まり

結婚、育児と忙しく過ごす中、幼稚園の母親学級からの依頼で音楽のリズムに合わせた健康体操を考案。その3年後、スウェーデンで初めての海外研修にてジャズ体操に出会う。帰国後は東京、大阪へジャズ体操の勉強に出かけた。名古屋では、まだこれからの時代だった。このことが先に述べた名古屋YMCAとの仕事へと繋がっていくきっかけとなった。

## ジャズダンス世界大会参加への遠い道のり

ジャズダンスの師フランク・ハチャット氏の指導を受ける中、ダンサーの成長のためにも世界大会に参加したいと大会主催者に打診してみた。しかし、ジャズダンス界での日本は意識外のような扱い。たった5分の参加のために、坂本さんは粘り強く何度も何度も申請を繰り返し、その苦労



師匠フランク・ハチャット氏とダンサー BDC NY（1984年）

が実ってやっと1990年のシカゴ大会に参加できる資格を得た。以後、招待で参加できるようになり、大会創立者で会長のガス・ジョルダーノ氏は世界的なダンスマガジン誌のインタビューで「大会に参加した最高の団体の一つ」と絶賛した。



JDWC会長ガス・ジョルダーノ氏（シカゴ）  
日本開催の要請に単身渡米（1992年）

インタビュで「大会に参加した最高の団体の一つ」と絶賛した。2001年8月発行のダンスマガジン誌の表紙は三代さんの「サムライ」である。

その誌の中で、ハチャット氏は「振付家 坂本と三代はジャンプをジャズダンスに採りいれ一体化した。ニューヨークのブロードウェイ・ダンスセンターで学びながらアメリカンジャズを急速に吸収し、自らが持つ日本的な伝統と客貌を一体化する行き方を採用した」と述べている。アメリカンジャズダンスワールドコンGRESS（1990年第1回）には全ての回（17回）、招待されている。坂本さんはこのコンGRESSを1995年8月に名古屋に招致して、世界の芸術性の高いジャズダンス作品を我々に魅せてくれた。

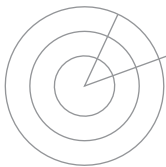
三代さんは今年、舞踊生活30周年、舞踊団設立20周年と祝事が重なり、益々、充実度が増している。今後の活動、国内、海外公演の評価と舞踊界事情などを、更に詳しく伺いたい。（次号に続く）



JDWC振付師シンポジウム（バッファロー）  
左端が本人（1999年）



# ピックアップ



## 新美南吉、間もなく生誕100年

童話作家・新美南吉の生誕100年が近づいてきた。南吉は1913（大正2）年7月、知多郡半田町（現在の半田市）の生まれ。進学や就職で愛知を離れた時期もあるが、29年の生涯の大半を愛知で過ごした。故郷の半田や女学校の教師として勤務した安城にはその足跡が数多く残されており、こうしたゆかりの地を中心に、メモリアルイヤーに向けてさまざまな催しが始まっている。

記念行事の拠点のひとつとなる半田市の新美南吉記念館では、東京外国語学校在学当時の下宿——ここで代表作のひとつ「手袋を買ひに」が書かれたと言われている——の再現など、年内に常設展示の拡充を予定中。「ごんぎつね」「手袋を買ひに」をはじめ、国語教科書でも広く親しまれている南吉作品の愛読者は子どもから大人まで幅広い。今回のリニューアルはとりわけ子どもたちを意識したものになるとのこと。そしていよいよ年明けにはこの新展示のお披露目を含む1月の「生誕100年開幕祭」に始まり、命日である3月22日の「南吉を偲ぶ会」、7月から8月の記念シンポジウムやコンサート、特別展などを含む生誕祭、9月下旬からの里巡りイベントや合唱オペラの上演など、記念行事が年間を通して続く。

なお、記念館では現在、特別展「巳之助の灯り～アニメで甦る『おぢいさんのランプ』～」が開催されている。「おぢいさんのランプ」は、南吉が晩年に上梓した第一童話集の表題作。ランプ売りで身を立てた巳之助が電灯の出現に悩み、葛藤した末に時代の変化を

受け入れ、新しい生き方を見出していく「社会の激変期」（展示解説より）を描いた作品で、2010年には文化庁の若手アニメーター育成プロジェクトの採択を得て民間のアニメーション制作会社によって映像化された。今回の展示はこのアニメ化記念とともに、知多半島送電100周年、作品執筆70周年の節目に企画されたもので、自筆原稿や執筆当時の日記はもとより、絵コンテをはじめとするアニメーション関連資料が多数並ぶほか、ランプの実物や知多地域の電灯の普及史なども紹介され、生活史や産業史の観点からも作品を読み広げることができる見ごたえのある内容になっている。

日記といえば、南吉は映画鑑賞や書店めぐりを目当てにししばしば名古屋を訪れ、その様子を書きとめている。恋人とのデートや東京から来た文学仲間との語らいなど、名古屋の街は南吉青年にとって伸びやかに振る舞える自由な場所だったようだ。（M）

### インフォメーション

・新美南吉記念館

特別展「巳之助の灯り～アニメで甦る『おぢいさんのランプ』～」は10月14日まで開催中

半田市岩滑西町1-10-1 TEL 0569-26-4888

開館時間：9：30～17：30

休館：月曜・第2火曜日（祝日・振替休日の場合は翌日）・年末年始

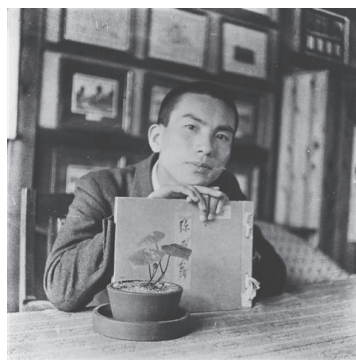
12月にはリニューアル工事のため臨時休館を予定

※100周年記念事業など、詳細は同館ホームページ

<http://www.nankichi.gr.jp/>をご参照ください



特別展の様子



新美南吉



矢勝川に咲く200万本の彼岸花

名古屋市文化振興事業団 事業案内・チケットガイドでは各種の事業案内、チケット販売をいたしております。  
平日9:00~17:00 / チケット郵送可 TEL 052-249-9387 / FAX 052-249-9386

## 名古屋市市政資料館×文化小劇場連携企画 特別講演会 文化小劇場で紡ぎ出す名古屋の歴史<前期>

教養の秋、文化小劇場で名古屋の歴史について学んでみませんか？ 名古屋市域の原始・古代から現代に至る歴史を編さんした「新修名古屋市史」の編集・執筆に携わった歴史の専門家による特別講演会を開催します。

また、来場者の皆さんを対象にスタンプラリーを実施します。講演会（全5回）と名古屋市市政資料館のスタンプ計6つを集めていただくと、事業団主催公演のチケット等を進呈します。是非ともお近くの文化小劇場へお出かけください。

### 【第1回】近代名古屋の戦争遺跡 ～高射砲陣地・神社に残る奉納物を中心に～

日 時 10月11日(木)14:00  
会 場 南文化小劇場(定員 394人)  
講 師 伊藤厚史(名古屋市見晴台考古資料館学芸員)

### 【第2回】名古屋の祭礼と芸能

日 時 10月19日(金)14:00  
会 場 名東文化小劇場(定員 356人)  
講 師 鬼頭秀明(民俗芸能研究家)

### 【第3回】熱田の町の賑わい

日 時 10月24日(水)14:00  
会 場 熱田文化小劇場(定員 352人)  
講 師 野村辰美(熱田神宮文化研究員)

※定員を超えた場合、ご入場いただけない場合があります  
※開場は各講演会開始時刻の30分前です

料 金 無料(事前申込不要・当日先着順)

問い合わせ 名古屋市文化振興事業団 事業案内 TEL 052-249-9387

主 催 名古屋市市政資料館、公益財団法人名古屋市文化振興事業団[各文化小劇場]

### 【第4回】「芸処名古屋」の由来を訪ねる

日 時 11月1日(木)14:00  
会 場 北文化小劇場(定員 297人)  
講 師 安田文吉(南山大学教授)

### 【第5回】工業都市名古屋の成立と発展

日 時 11月13日(火)14:00  
会 場 西文化小劇場(定員 346人)  
講 師 笠井雅直(名古屋学院大学教授)

### 【文化小劇場で紡ぎ出す名古屋の歴史<後期>のお知らせ】

2013年1月～2月に全6回の予定で、特別講演会「文化小劇場で紡ぎ出す名古屋の歴史<後期>」を開催します。なお詳細は文化情報12月号にてご案内いたします。

また、後期講演会でもスタンプラリーを実施しますので、是非ふるってご参加ください。さらに前期と後期の全て及び名古屋市市政資料館のスタンプを集めていただいた場合、名古屋市市政資料館より新修名古屋市史第10巻(年表索引+9巻分CD-ROM)をもれなく進呈しますので、前期講演会終了後もスタンプラリー台紙はお手元に保管ください。

## 第28回 芸術創造賞 受賞者決定

芸術創造賞は、名古屋市文化振興事業団の初代理事長・故亀山巖氏から受けた寄付を基金とする賞です。名古屋を中心に活動し、前年度における芸術創造活動が特に顕著で、今後の活躍が期待される個人または団体に贈るものです。このたび第28回の受賞者を決定いたしました。

はまだ じゅり  
濱田 樹里

現在最も華々しく活躍している若手画家の一人である。

愛知県立芸術大学美術学部日本画専攻の卒業時、そして、同大学院修了時の二度にわたって買い上げ賞を受賞しているように、在学時からその才能は高く評価されていた。

愛知県立芸術大学研究生修了後も、コバヤシ画廊において展覧会を毎年開催し続けているほか、2009年の愛知県美術館における「あいちトリエンナーレ2010に向けて現代美術の発見Ⅱ テーマ展 濱田樹里『根源の在処』」では高さ200cm、幅1,680cmの「焔にたつ華」を、そして2011年の一宮市三岸節子記念美術館での『濱田樹里展～生命の奔流～』では高さ180cm、幅2,236cmの「昇華の大地」をはじめとする数多くの大作を発表し、大きな反響を呼んだ。

スケール感のみならず、鮮烈な色の対比と微妙な色合いの調和が見事な作品創りが評価され数多くの賞を受賞している。

ダイナミックな構成力と緻密な表現力を同時に兼ね備えた画家は希有な存在であり、十分な実力を兼ね備え、精力的な制作・発表活動を続けている姿勢からも今後一層の活躍が期待できる。

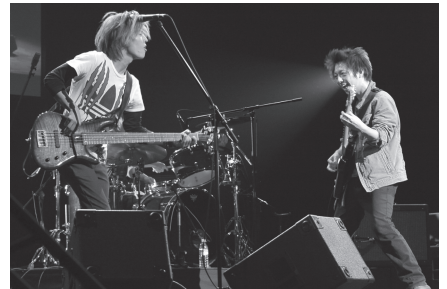




## 第8回 尾張名古屋バンド決戦！ 出場者募集

名古屋発のロック、ポップスを中心としたバンドコンテストを開催します。

- 対 象 青少年（メンバーの半数以上が29歳以下）  
 人 数 本選出場10バンド  
 応募方法 オーディオCD、写真を添え専用の申し込み用紙にて応募  
 配布先 市内各ライブハウス、劇場等、ホームページよりダウンロード  
 応募期間 11月1日（木）～11月30日（金）〈当日消印有効〉  
 主催 名古屋市文化振興事業団、東海テレビ放送  
 東海ラジオ放送、FM AICHI、ZIP-FM  
 協力 エレクトリックレディランド、ハートランドスタジオ  
 ヤマハ株式会社、音楽情報サイトえびてん！  
 CRYSTAL GEYSER  
 問い合わせ 名古屋市文化振興事業団 事業案内 TEL 052-249-9387



第7回優勝バンド P E A K.

## 伝統文化シネマ鑑賞会10・11・12月

日本の伝統文化を未来に一人間国宝の卓越したわざ、各地域に伝承されてきた民俗行事は、時代を超えて私たちに語りかけてきます。優れた無形の伝統文化を記録した映画を月1回、各文化小劇場にて上映します。

緑文化小劇場と西文化小劇場では、本編終了後に、名古屋を舞台に気鋭の監督が撮影したショートフィルム「ショートストーリーなごや」映像化作品を上映いたしますので、あわせてお楽しみください。

### 日時・会場・上映作品

- 10月12日（金）14:00～ 中川文化小劇場  
 ①染織「芭蕉布を織る女たちー連帯の手わざー」（30分・1981年完成）  
 ②秋田「端縫いのゆめー西馬音内盆踊り」（31分・1984年完成）  
 11月16日（金）14:00～ 緑文化小劇場  
 ①陶芸「藤本能道の色絵磁器ー釉描加彩ー」（31分・1987年完成）  
 ②人形「人形作家 秋山信子ー心やすらぐ人形をー」（38分・2001年完成）  
 12月 4日（火）14:00～ 西文化小劇場  
 ①染織「山田貢の友禅ー凧ー」（34分・1995年完成）  
 ②青森「ねぶた祭りー津軽びとの夏ー」（34分・1993年完成）



染織・芭蕉布



人形作家・秋山信子



青森・ねぶた祭り

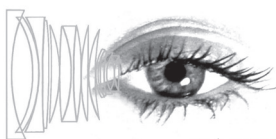
料 金 無料(当日先着順)

問い合わせ 中川文化小劇場(定員 446人) TEL 052-369-1845  
 緑文化小劇場(定員 446人) TEL 052-879-6006  
 西文化小劇場(定員 346人) TEL 052-523-0080

主 催 公益財団法人名古屋市文化振興事業団／公益財団法人ポーラ伝統文化振興財団

### 舞台VTR映像専科

ステージの感動を格調高い映像で追求します。



ビデオソフトの企画・制作

有限会社 エーワン・ビデオ・システム  
 TEL (052)896-2256 FAX (052)896-4100



ハードシステム 部門  
 AV機器販売部門 (家庭用)  
 映像企画・制作部門  
 放送関連部門  
 機器設備レンタル部門

映像メディアの未来を創る  
 生きた情報を発信

TVS 株式会社 東海ビデオシステム  
 名古屋市中区上筒井二丁目14-15 TEL.<052>322-6541(代表) 6562(営業部)



■ホール舞台音響設備 販売、設計、施工、保守

株式会社エーアンドブイ  
 〒464-0846  
 名古屋千種区城木町二丁目98  
 TEL 052 (761) 5400  
 FAX 052 (761) 0909



# 名古屋市民芸術祭2012

名古屋市民芸術祭は今回で23回目を迎えました。今年は10月～1月に音楽・演劇・舞踊・伝統芸能・文学・生活芸術・美術の幅広いジャンルにおいて、主催事業・参加公演が繰り広げられます。

今月号では10月の参加公演についてご案内します。

**参加公演** 音楽・演劇・舞踊・伝統芸能の4部門から参加を募り、特に優秀な公演に対し市民芸術祭賞を、もしくは特に表彰に値する公演に対し市民芸術祭特別賞を贈ります。10月・11月の2ヶ月間に20公演が参加します。

## 音 楽

**JAZZの森2 -ジブリ×ジャズ-**  
10月2日(火) 19:00  
芸術創造センター  
一般2,500円(当日3,000円)  
中学生以下500円(当日1,000円)  
TEL 052-880-4499(ホテルギグ)

**ブラスアンサンブル・ロゼ  
レギュラーコンサートvol.3**  
10月18日(木) 19:00  
熱田文化小劇場  
一般2,500円(当日3,000円)  
高校生以下1,500円(当日2,000円)  
TEL 052-764-3233(加藤日名子)

**パロックソナタと長谷川尚之個展**  
10月20日(土) 18:30  
電気文化会館ザ・コンサートホール  
一般3,000円(当日3,500円)  
小学生以下 無料  
TEL 052-678-5310(クラシック名古屋)

**中岡祐子ピアノリサイタル**  
—日本の美と西洋のロマンに想いを寄せて—  
10月21日(日) 14:00  
宗次ホール  
一般3,000円(当日3,500円)  
TEL 052-505-0151(二宮音楽事務所)

**田中孔波ピアノリサイタル**  
10月26日(金) 19:00  
電気文化会館ザ・コンサートホール  
一般3,000円、学生2,000円  
TEL 052-678-5310(クラシック名古屋)

## 演 劇

**人形劇「風が吹くとき」**  
10月18日(木) 19:00  
10月19日(金) 19:00  
10月20日(土) 14:00  
うりんこ劇場  
一般2,500円(当日2,800円)  
子ども1,500円(当日1,800円)  
TEL 052-781-7412(人形劇団パン)

## 舞 踊

**バリ・インド国際共同制作公演“ラーマヤナ”**  
WB Çudamani&ウロツテナヤ子×Yukie Satoh & インド古典音楽  
10月4日(木) 19:00  
西文化小劇場  
一般4,000円(当日4,500円)  
TEL 080-3633-1441(Yukie Odissi dance Class SAMATTI)

## 伝統芸能

**宗家藤間流藤楊會25周年記念  
藤間勘楊・藤間勘之介～親子リサイタル～**  
10月8日(月・祝) 14:00  
北文化小劇場  
指定席4,000円、自由席3,500円、学生席2,000円  
TEL 090-6336-7880(藤楊會事務局)

**第三回桜美の会**  
10月19日(金) 18:45  
名古屋能楽堂  
一般4,000円、学生3,000円  
TEL 052-881-6684(桜美の会本部)

**問い合わせ** 名古屋市民芸術祭実行委員会事務局 TEL 052-249-9387 FAX 052-249-9386

あなたの芸術文化ライフを総合的にサポートします！  
公益財団法人名古屋市民芸術振興事業団

## 「友の会」会員大募集！

### エンジョイコース (年会費 3,000 円)

- ・事業団主催公演チケットの割引販売！
- ・事業団主催公演指定席チケットの先行販売！
- ・「友の会だより」「なごや文化情報」を毎月お届け！など

### クリエイティブコース (年会費 15,000 円)

- ・会員主催の公演チラシを事業団管理運営施設へ配送！
- ・会員主催の公演チラシを友の会会員へ配布！
- ・会員主催の公演で事業団の後援名義が使用できる！など

名古屋市民芸術振興事業団 事業案内  
TEL 052-249-9387

## 名古屋市民芸術振興事業団 事業案内・チケットガイド

名古屋市中区栄三丁目18番1号 ナディアパーク8F  
TEL 052-249-9387/平日9:00~17:00※郵送対応可

### ○事業団主催事業のお問い合わせ

### ○チケット販売

- ・事業団チケット販売システムでのチケットの販売（「チケットぴあ」の取り扱いはありません。）  
※チケット販売システムで販売のチケットは名古屋市民芸術振興事業団が管理運営する文化施設窓口でもお求めいただけます。(東山荘を除く)
- ・事業団友の会クリエイティブコース会員様のお預かりチケットの販売。

### ○文化芸術相談窓口

### ○チラシの受付

## 「なごや文化情報」編集委員

飯塚恵理人(椋山女学園大学文化情報学部教授)  
小沢優子(名古屋音楽大学講師)  
倉知外子(オクダ モダンダンス クラスタ副代表)  
酒井晶代(愛知淑徳大学メディアプロデュース学部教授)  
田中由紀子(美術批評/ライター)  
はせひろいち(劇作家・演出家)

当事業団の募集する事業にお申し込みいただいた場合の個人情報、当該事業に関する事務連絡及び、当事業団の文化事業に関する案内のみに使用させていただきます。

## 名古屋能楽堂10月定例公演

### ◆能・狂言と文学 ―時代を越える“ことば”と“ところ”―

室町時代前期に大成した能・狂言は、それ以前に成立した古典文学から題材を得て作られました。そして、能・狂言もまた、後代の文学に影響を及ぼしています。

今年度の定例公演では、近現代の小説や戯曲の題材となった能・狂言の作品を主に取り上げ、時代を越えて受け継がれてきた日本文学の魅力をお伝えします。

10月公演は、円地文子の小説から能「枕慈童」、谷崎潤一郎の随筆より狂言「石神」をお贈りします。

能 <sup>まくらじ どう</sup>「枕慈童」(喜多流) / シテ 長田 暁  
 狂言 <sup>いし かみ</sup>「石 神」(和泉流) / シテ 野村又三郎

日 時 10月26日(金)18:30  
 料 金 <指定席>4,000円  
 <自由席>一般3,000円 / 学生2,000円  
 ※友の会会員は1割引(前売のみ)  
 ※当日券は自由席のみ500円増となります

問い合わせ 名古屋能楽堂 TEL 052-231-0088 FAX 052-231-8756



能「枕慈童」

## ナゴヤまちかどアンサンブル

ナゴヤまちかどアンサンブルは、名古屋の街を素敵な音楽でいっぱいになりたいとの思いで始めました。愛知県立芸術大学・名古屋音楽大学・名古屋芸術大学・甲陽音楽学院が協力して開催し、名古屋の若手演奏家のフレッシュな演奏をお届けしていきます。

日 程 9月22日(土)～11月4日(日)の原則金・土・日曜日  
 会 場 ナディアパークアトリウム、中日ビル1Fロビー、大須商店街ふれあい広場  
 JRタワーズ12階レストラン街、新幹線地下街エスカレータープラザ  
 三越星ヶ丘店ピロティ、テレビ塔タワースクエア 等  
 出 演 愛知県立芸術大学・名古屋音楽大学・名古屋芸術大学  
 甲陽音楽学院の学生と若手演奏家  
 料 金 無料  
 ホームページ <http://www.machikado-ensemble.com>  
 主 催 ナゴヤまちかどアンサンブル実行委員会  
 (愛知県立芸術大学・名古屋音楽大学・名古屋芸術大学・  
 名古屋市・公益財団法人名古屋市文化振興事業団)  
 問い合わせ 名古屋市文化振興事業団 事業案内 TEL 052-249-9387



## ナゴヤ・マーチング&バトン・ウェーブ'12

全国トップレベルのマーチングバンドとバトントワリングの地元強豪チームが一堂に会し、華麗な技の数々を披露。

日 時 10月7日(日)12:00開演(11:00開場) 会 場 日本ガイシスポーツプラザ 日本ガイシホール  
 料 金 S席 1,000円 A席 500円<全指定席> チケット取扱 9月10日(月)販売開始  
 問い合わせ 名古屋おしえてダイヤル チケットぴあ(Pコード 177-998)  
 TEL 052-953-7584 FAX 052-971-4894 サークルK・サンクス、セブン・イレブン

